

平成 30 年 10 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

平成 30 年 10 月 3 日（水）
午前 11 時～午後 0 時 01 分
柏崎市役所本館第 1 会議室

1 発表事項

(1) 米山プリンセスがデビュー —柏崎市認証米「米山プリンセス」試食会—

（主管：農政課）

柏崎市の認証米、米山プリンセスの試食会を 10 月 27 日に産業文化会館で行います。特別招待者の 5 ツ星お米マイスターの澁谷さんは、米だけでなく、穀物の 6 大資格の所有者と伺っています。みやじ豚の宮治さんも有名な方と聞いています。東洋ライスの阪本さんも手広くお米の販売をしています。阿部さんは、市内のお米屋さんで、澁谷さんと同じように五ツ星お米マイスターです。市内の招待者は、JA の今井長司さんなど 9 人です。皆さん発信力のある方ですので、米山プリンセスを紹介してもらえるとありがたいです。

首都圏の試食会・販売会は、11 月 1 日に GINZA SIX、11 月 10 日～11 日に東村山市民産業まつり、11 月 16 日に東京東信用金庫のビジネスフェアを予定しています。

認証米の申請期限は、10 月末日です。認証された米はまだありませんが、遅い刈取りの方が、レベルの高い米ができると思われます。認証がゼロということはないと考えていますので期待して待っています。

(2) 地方版 IoT 推進ラボに「柏崎市 IoT 推進ラボ」が選定されました

（主管：ものづくり振興課）

IoT 推進ラボの認定証を読み上げます。「貴ラボは地域経済の発展と推進に資する IoT プロジェクト創出のための取組と認められるためここに「地方版 IoT 推進ラボ」として選定されたことを証します」。9 月 7 日付けで、世耕（せこう）経済産業大臣と IoT 推進ラボ座長の富山和彦さんの名前が書かれた認定証をもらいました。世耕大臣は、今回の内閣改造で、引き続き大臣をしますので、非常に心強いです。

柏崎の基幹産業は、製造業、工業です。人手不足と技術の継承が課題となっていて、IoT 技術が必然として求められています。IoT 推進ラボの主な取り組みは、AI、IoT の技術を導入するものづくり企業への支援、サプライチェーン全体の最適化を目指した実証実験、IT パスポ

ートや IT コーディネーターの取得者を養成する人材育成です。市内の各企業と大学が産学連携をしてもものづくり産業を支援します。

新潟県も IoT 推進ラボに取り組んでいます。県と市の事業メニューにダブリはありません。県のメニューとも連携をしながら柏崎市の IoT 推進ラボを進めていきたいと考えています。柏崎には、ソフトパーク構想からの長い歴史があります。その歴史が国にも認められて、この新しい取り組みが選定されたと理解をしています。

(3) 水球のまち柏崎からみんなで水球を元気にしたい!

—ふるさと納税で柏崎から 2020 東京オリンピック日本代表選手を輩出!—

(主管：水球のまち推進室・元気発信課)

リオオリンピックには、柏崎から 4 人の選手が出場しました。東京オリンピックも柏崎から多くの選手に出場してもらいたいので、選手の育成強化として、ガバメントクラウドファンディングに取り組みます。水球のまち柏崎からみんなで水球を元気にしたい。ふるさと納税で柏崎からオリンピック選手を輩出したいということです。このガバメントクラウドファンディングの返礼品はありません。その代わりに、皆さんのお気持ちを選手強化に使わせてもらいます。目標は、200 万円です。200 万円のうち 170 万円を選手強化費に、残り 30 万円を小学 1 年生のランドセルカバーに水球を応援するイラストを入れるために使います。小学 1 年生のランドセルカバーで、水球を PR しながら皆さんで東京オリンピックへの水球選手の輩出を応援していこうということです。

他の自治体のガバメントクラウドファンディングを紹介します。東京都世田谷区は、競技施設のバリアフリー化。墨田区は、地域活性化プロジェクト。長野県松川町は、コスタリカへ高校生を派遣。京都府亀岡市は、空手を通じた国際交流。島根県奥出雲町は、ホッケーで世界を目指す子どもたちを応援ということです。

(4) この秋柏崎の魅力に出会う

—職・ものづくり・暮らしのセミナーを開催—

(主管：元気発信課)

この時期、いよいよ就職活動も終盤になってきました。また、来年度のスタート時期でもあります。

10 月 26 日、市内の企業と県内大学・専門学校との情報交換会を行います。大学は 11 校、専門学校は 9 校、企業は 29 社が参加予定です。同様の情報交換会はこれまで、県、新潟市、長

岡市、三条市、燕市で開催しました。

10月27日の柏崎ライフスタイルカフェは、東京都江東区のリトルトーキョーで行います。(株)サイカワ、(株)酒井鉄工所の社長・社員が柏崎の製造業について話します。柏崎に戻って、製造業に携わるきっかけづくりになればと思います。希望者には、後日、市内の企業見学のサポートをします。

U・Iターンの相談窓口は、市役所とフォンジェ地下のU・Iターンのスペースがあまり機能していません。私は何回かフォンジェ地下のU・Iターン情報ステーションに行き、買い物に来るおばあちゃんたちに「あんたんちの孫、柏崎に戻って来ねえかね」と誘いますが、なかなかピンとくる話はありません。首都圏に出向いて、首都圏に住む方にアプローチをする機会を意識して増やしていきたいと考えています。

10月28日は、ブリッジ新潟で最新の求人情報をもとに個別相談会を行います。また、有楽町駅前にあるふるさと回帰支援センターで「海のまち」柏崎U・Iターン出張相談会もあります。多くの方にお越しいただき、1人でも2人でもU・Iターンに結びつけばありがたいです。

(5) 第34回雪シンポジウム in 柏崎を開催

(主管：企画政策課)

雪シンポジウムを11年ぶりに柏崎で開催します。

今年は、豪雪でした。この豪雪で、除排雪経費がいつもより約6億円増えました。雪が降る自治体にとって、雪は、非常に切実な問題です。

基調講演は、(国研)防災科学技術研修所雪氷防災研究センター長の上石さんです。リレートークは、それぞれの立場の方が雪に関する話をします。

2 当面の諸行事

10月7日、岩之入公民館でインターン生の活動報告会を行います。これは、岩之入集落に8月から9月の1ヵ月間、3人のインターン生が岩之入集落で行ったインターンの活動報告です。30回目の高柳の狐の夜祭りは、八尾のおわらの披露があります。西山は、ゆうぎの秋祭り、軽トラ市があります。四つの酒蔵による四つ蔵秋の晩酌セット、3年ぶりに開催する職人フェアは、大工さんなどの職人さんが夕日のドームに集まるフェアです。

美しい松雲山荘のリーフレットを紹介します。中を開くと松雲山荘と飯塚邸の秋幸苑と高柳の貞観園が3つ並べてあります。3つの庭をセットにして柏崎の秋を売り出したいと考えて

います。ちなみに松雲山荘は、某旅行雑誌で紅葉がきれいな庭の 33 選の 1 つに選ばれたという情報をいただきました。

10 月 28 日の秋の収穫祭は、農業まつり、かしかり虹祭り、ぱくもぐフェアを一緒にしたイベントです。

3 質疑応答

◎米山プリンセスに関する質問

記者：試食会の参加予定者数は何人か。まだ認証がないが、試食会には間に合うのか。猛暑や気候条件が悪かったが、どれくらいの収量が見込まれるか。

市長：私も特に収量に関しては非常に心配しています。

農政課長：まず、試食会の招待者の件です。特別招待者 4 人は全て出席します。市内の招待者 10 人のうち、8 人は出席、あとの 2 人は日程調整中です。この他、市長、担当部長が出席します。一般の方の参加は、想定をしていません。

米山プリンセスの状況です。当初 18 人の生産者が取り組む予定でしたが、実際は 16 人でした。そのうち 10 人の生産者が稲刈りと検査を終了しています。特に早く稲刈りをした方は、高温・渇水の影響を受けて、いつもより品質・食味が上がらず、残念ながら該当しませんでした。あとの 6 人は、今週と来週の稲刈りを予定していて、品質・食味ともより良いものが出てくるという話を聞いているので期待をしています。ある生産者が試験的な検査を刈り取り前にしたところ、クリアするのではないかという情報をもらいました。

記者：市内の料理店で米山プリンセスを今年試験的に使う話は、出ているか。

市長：収量の問題がありますし、ふるさと納税の返礼品にする予定です。

農政課長：市内の飲食店で取り扱いをしたいという話を聞いていますが、具体的に手を挙げた方は今のところいません。今年は 1 年目ということもあるので収量の関係から、ふるさと納税の返礼品、イベントでの試食・販売などを主体に、米山プリンセスを使いたいと考えて

います。また、来年以降はもっと増やしていければいいと思います。

◎水球の選手に対するふるさと納税の支援に関する質問

記者：用途にある、冬季間の練習、または県外遠征に対する経費は、ブルボンのクラブに対しての支出か。

市長：ブルボンウォーターポロクラブ、新潟産業大学の支援と理解しています。

水球のまち推進室長：現在、ブルボンウォーターポロクラブの社会人チームに300万円補助をしています。冬季間の活動をさらに有効に行うために、170万円を上乗せしたいと考えています。支援先は、主に日本代表の輩出につながるブルボンウォーターポロクラブの社会人チームと新潟産業大学水球部を考えています。

◎ふるさと納税に関する質問

記者：全国の自治体の中で、ふるさと納税の返礼品競争が起きていることを、どのように感じているか、責任はどこにあるのか。

市長：国に対して批判的な態度は取っていません。野田大臣が言った見直しという部分はしるべき対応だと思っています。3割を超えたらこうしますという拘束力のある方向性が見いだされましたが、地方自治体が財源を確保するのに難儀しているという現状を、ふるさと納税が露呈してきたのではないかと考えています。

皆さん難儀して何とか税収を得ようということだと思いますので、国の財政と地方財政の在り方を考えるきっかけになればいいと思っています。

◎U・Iターン出張相談会に関する質問

記者：U・Iターンの課題は。

市長：市役所とフォンジェに開設しているU・Iターンの窓口は、親御さん・おじいちゃん・おばあちゃんの相談窓口になっています。U・Iターンを希望する本人が窓口に行くことが少ないという現状を、直接窓口についてみて改めて気付いたところです。首都圏などの現地に行って、現地の方に直接、相談会を開いた方がいいのではないかと考えを少しシフトしたところです。

記者： 相談会以外でこれまで何を行ったか。

市長：住宅改修の補助、新規農業者への補助などを行いました。U・Iターン以外の方も対象ですが、柏崎信用金庫と一緒に起業家を養成するたまご塾もやりました。人手不足に困っている市内企業の方が東京に行き、出張トークイベントも行っています。企業向けの相談会を市内・市外でも重ねて行っています。他の自治体もやっていますが、引けを取らないほどの回数、内容で行っています。

◎災害に対する備えに関する質問

記者：北海道でブラックアウトが起きたり、静岡で停電が起きたりする中、昨日東京電力が全ての外部電源が失われたという想定での訓練を行いました。市として、こういった大規模な停電に対する備えや想定をしているものがあるか。

市長：ブラックアウトを想定した訓練は、今までやったことはないと思います。ただ、ブラックアウトを含めていろいろな災害を想定した避難訓練は重ねてやっています。9月30日(日曜日)午前中も市役所職員全員が災害対策訓練をやりました。

原子力災害に関しては、県に対して、避難計画を作ってから避難訓練を行うのではなく、避難訓練をやりながらそこで出てくる課題・問題点をベースに避難計画を作ってくださいと言っています。ただ、花角知事も3つの検証委員会の避難委員会の回数を増やして行っていますので、県の動きと東京電力の訓練を見ながら、総合的な防災訓練を重ねて行わなければならないと思っています。

記者：昨日の東京電力の訓練は、映像というかたちで柏崎市を含むUPZ圏内の自治体に職員を派遣していたと思うが、東京電力との情報のやり取りを行って感じた課題や進捗（しんち

よく)は。

市長：昨日の訓練を詳しく把握していません。

記者：花角知事が、県議会の中で今年度は机上訓練を行い、実動訓練は来年度以降に行うと説明していたが、受けとめは。

市長：今年度中に訓練を行って、年明けには計画を作るという話であったと思います。

記者：県議会で、机上訓練を年度内、実動は来年度以降と発言している。

市長：事実関係を承知していませんが、議会での発言ですか。

記者：はい。

市長：年度内に実働訓練をやって、その成果を含めて早く避難計画を作ってほしいというのが私の希望です。

記者：引き続きまたお願いするのか。

市長：私の希望を重ねて県にお願いしたいと思います。

記者：県が行わなければ、市で計上した予算を減額するのか。

市長：県が行わなくても、市が単独で行う必要があるかもしれません。県が机上訓練で行うのに、市だけ真冬に行うのは現実的ではないし、意味がありません。県の方向性を1回確認して市の対応を考えたいと思います。

記者：今年度中に求める実動訓練はどの範囲までか。

市長：もちろん、準備期間のない中、フル規格の実動訓練を冬季や夜間にできるとは思っていない。どこまでのものを求めるかという、ひと言で答えられません。昼間行うことは必要だと思います。

記者：訓練の認識がそれぞれ違っていたということか。前回の検証委員会でも、県は机上訓練を行えばいいだろうと言っているが。

市長：私との話の中で、知事はひと言も机上訓練とは言いませんでした。

記者：県はできるなら机上訓練でと、市長はそう思っていないでしょうが。

市長：思っていない。机上訓練だけだったら、申し訳ないけど何で来年の春までかかるのかなと。

記者：机上訓練だったらすぐにできる用意があるということですね。

市長：そうです。

記者：面会后、具体的な働きかけがまだない。

市長：何もありません。もう1回、3つの検証委員会をしっかりと位置付けてから進めてほしいと思います。私がずっと申し上げたことに対する返事として、結果的に机上訓練となれば非常に残念です。

記者：実動訓練を通じて何を検証したいのか。

市長：なぜ夜間、冬季間という最悪のパターンを含めて申し上げたかという、就任後すぐに北海道泊の原発で行われた国の防災訓練を見させてもらいました。シナリオ通りのきれいな訓練でした。雪が降る所ですが、北海道の雪と柏崎の雪は違います。北海道では、除雪車の前方にほうきが付いていて、サラサラした雪を掃いていきました。柏崎の雪は、ほうきで

掃けません。そうすると、避難道路・避難経路は大丈夫なのか、やってみなければ分からないということです。実際に訓練をやって、ここはダメだった、ここはうまくいったということが分かるわけです。特に大事なのは住民の避難の在り方です。バスは確保できるのか、運転手は確保できるのか、交通渋滞が起きないのか、そのための道路の整備はできているのか、冬なら除雪はできているのか、除雪をやるのは誰か、特別養護老人ホームなど、介助が必要な人たちの避難はどうするのか。この前、荒浜町内会が行った訓練をプライベートで見に行きました。その時も、お年寄りをリヤカーで運ぶことはしなかった。あの日はいい天気でした。けど、雨風があったら、実際どうするのか。これはやはり実際の訓練で初めて得られるものが多いと思っています。

記者：市として今後東京電力に、有事の際の情報共有について求めたいものがあるか。

市長：これは東京電力の姿勢によると思います。例えば、福島の問題。基準を超えて再処理が必要な水がこれだけありますという情報公開はしていましたが、説明はしていませんでしたよね。要は、どういうつもりで情報を発信するのかという姿勢が東京電力にも行政にも求められていくと思います。

単に情報を出せばいいというのではなくて、住民に説明するという部分の説明責任が原子力行政と東京電力に求められていると思います。

以上